

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【国語】 ○以前よりも語彙数が増え、言葉に対する理解を深めようとする意欲が見られるようになった。 ○伝わりやすい文章構成を考え、周囲の友人たちに意見を伝達できるようになってきた。 ▽全体的な学力として区平均と変わらない水準に到達しているが、一層の知識の定着・活用が求められるため、授業内容を精選していく。	●知識を活用しようとする意欲が見られるものの、誤って活用していたり、言葉の選択や文の構成で適切でない表現をしてしまったりすることがあるので、現行以上に知識の定着から活用までの流れがスムーズな授業を作成する。 ▼古典作品や文法の学習では知識の伝達だけの時間が授業計画の中に生まれてしまうが、これまでの既習事項から知識の発見や確認が行えるように、思考を促す授業を行う。
【数学】 ○問題集やプリントを活用等を通した演習の反復練習を行うことで以前より知識・技能の定着が見られる。 ▽新宿区学力調査の結果から、正答率が「基礎」では4.9ポイント、区平均を下回っており、基礎・基本の定着に課題がある生徒がいる。	●今後も、問題集やプリントを活用して、基礎的・基本的な内容を、主体的に学習できるよう粘り強く指導にあたる。 ▼デジタルドリルを活用し、個別最適化された学習に取り組ませる。
【理科】 ○問題集やプリント、デジタルドリル等を活用して、既習事項の反復練習をする時間を授業時間内外で確保できるよう取り組んでいる。 ○自ら実験・観察を通して得た結果から分かることについて、話し合い活動を取り入れながら考察させている。 ▽既習事項や生活体験を基に根拠を基にした予想や実験・観察の結果を基に考察ができない生徒もいる。	●今後も反復練習を行う機会を多く設け、知識の定着を図る。 ●今後も実験・観察の場面において、話し合い活動を充実させる。 ▼根拠のある予想をする方法、過去の知識や実験・観察の結果をもとに考察する方法を指導していく。
【社会】 ○問題集やプリント、デジタルドリル等を活用した学習により、基礎的・基本的な知識・技能の定着が見られる。 ○話し合い活動や調べ学習等、多様な学習手法を設定したことで、主体的・協働的に学び、理解を深める様子が見られる。 ▽記述式の問題正答率が低く、学びを言語化することを苦手とする生徒が多い。	●今後も、小テストや課題を小まめに設定し、学習内容のより一層の定着を図る。 ●ICT機器を活用し、主体的・協働的な学びをさらに深めていく。 ▼授業のまとめや単元のまとめ等、自らの考えを根拠立てて記述することに慣れさせる。

【英語】

- 単語練習や単語テストの時間を設けることで、語彙の強化に意識的に取り組ませている。
- ALTとのパフォーマンステストやタブレットを活用した表現テスト等を各学年で実施し、話すことへの意欲が向上している。
- ペアやグループでの練習や発表の機会により、協働的な学びを通して理解を深めている。
- ▽自分の考えを正確にアウトプットすることに課題が見られる。

- 今後も定期的に小テストを実施し、基礎的な知識の定着をはかっていく。
- パフォーマンステストに向けた練習を通して、生徒自身が間違いに気づき修正する機会をつくる。
- ペアやグループワーク学び合いを継続して行い、コミュニケーション力を高めていく。
- ▼既習の知識を活用して、発話・発表する機会を増やす。また、英作文の添削指導を継続していく。